

森林伐採届の要綱を新たに作成すべき

新橋 実 議員



問 森林伐採が増加傾向にある。誤伐・盗伐他近隣住民とのトラブル等を防ぐためにも、曾於市のような伐採届の要綱を作成すべきではないか。

答 曾於市では、伐採届等に関する事務取扱要領を定め、届出書に添付する書類の厳格化を図っており、適正な伐採を促進するためには必要と考えている。管内の統一的な基準の策定に向け協議しており、年度内に作成する考えである。

早急な牧之原中学校のトイレ改修

早急な牧之原中学校のトイレ改修

問 牧之原中学校のトイレは、教室から離れた場所にあり、そのほとんどが和式トイレである。夏場は臭いが、冬場は寒さがきつい状況であるため早急に対処すべきではないか。

答 令和2年にトイレの洋式化を進めていく。併せて臭いの問題や寒さの問題などの環境面でも整備を図っていく。



牧之原中学校トイレ

その他の質問
・鹿児島国体の施設整備等について



顧客意識で市民へ寄り添う職員の育成とは

松枝 正浩 議員



問 市民満足度の向上を図るため、市民を顧客として捉え、市民へ寄り添える職員の育成を行うための取組はできないか。

答 外部講師による研修を継続して実施し、全職員を対象にあいさつ、言葉遣いや電話対応等を学んできた。また、「もう一度訪れたくなる市役所」をスローガンに掲げ、全職員が共有し、各種研修を通じて、職員のより一層の資質向上に努めることとしている。

青葉小学校の今後は

川窪 幸治 議員



問 青葉小学校が、廃校や老人ホームになるのではと多く聞かれるが、本当はどうなのか。

答 青葉小学校では、保護者や地域と共に教育がなされ、最近では子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰や教育文化スポーツ部門で同校PTAが霧島市民表彰を受賞するなど、実践的な教育活動が高い評価を得ている。廃校や用途変更について一切検討したことはない。

本市の防災対策は今...

問 本格的な梅雨入りとなったが、本市の防災対策はどうか。

答 毎年度、早期に災害対策要員を配備し、随時、危険箇所の情報収集に努めている。また、防災訓練の実施や市防災会議を開催し、防災関係者や地域との連携を強化し、災害の未然防止と被害の最小化に向けた取組を進めている。



防災訓練

その他の質問
・学校給食について
・あいさつ運動はどのように進んでいるのか



外遊び指導者・冒険遊び場導入の検討を

山口 仁美 議員



問 子どもの遊び環境が大きく様変わりしている。精神的・身体的・社会的に発達しづらい環境となっていることを昨年指摘した。共働きの増加で保護者の見守りの目も届かず、放課後の校庭も遊べない。外遊び指導者の養成や市有地を活用した冒険遊び場導入など検討できないか。

答 手作りの遊具や木や土、水などの自然素材を使い、子どもたちが自由に遊ぶ「冒険遊び場」は、子どもの想像力や身体運動性を刺激する有意義な場所であると考えている。公約にある「こども館」の設置と合わせて調査・研究していく。



冒険遊び場

その他の質問
・多胎児世帯の支援について
・学校図書の実態について

・宮内児童クラブの施設整備について
・福祉と教育の連携について



移住定住促進施策の充実を

前川原 正人 議員



問 市は、移住定住促進施策に取り組んできた経緯がある。2020年以降、本事業は廃止予定だが、今後も人口増加対策を継続すべきではないか。

答 本事業を活用して中山間地域に移住された方は、平成30年度末で399世帯、1082人であった。これまでの実績や効果を精査し、地域の特性や良さを活かせるよう検討していきたい。

高すぎる国保税の引き下げを

問 昨年に続き、本年も国保税率は引上げられ、市民は「国保税が高すぎて生活できない」など悲鳴をあげている。所得250万円標準4人世帯で約55万円、制度は違うものの同じ条件での社保では約23万円である。暮らしを守るために負担軽減すべきではないか。

答 加入者は高齢者、低所得者が多く医療費も増加している。制度の安定的な運営には、受益と負担のバランスが必要と考える。

その他の質問
・外郭団体に働く職員と会計年度任用職員制度について



豪雨災害対策を早急に

問 これまでの豪雨災害対策と今後の計画はどうか。

答 平成5年のいわゆる8・6豪雨災害を受け、これまで排水路改修や放水路の整備、駐車場地下貯留施設の整備等を行ってきた。今後は、平成31年3月に策定した「霧島市雨水管理総合計画」に基づき、国の交付金を活用して雨水対策事業を円滑に行っていく。



整備された牟田放水門

